

理事会と評議員会を開催



徳島県遺族会 役員等名簿（一部改選後）

市郡	理事	監事	評議員
徳島市	上浦喜代志 緒方和子 原 裕二		加古健二・平岡 節子 横石 忠男・岩内 利信 戸井田龍行
鳴門市	長尾 俊行◎ 古 林 勢一郎		田村 嘉啓
阿波市	後藤 耕治◎		吉岡 実
板野郡	白川 祐史 正 木 光普 武 田 健司 山 本 武重 神 野 克彦 濱 坂千代 順彦	中道 健和	仁木 輝子・栗飯原富子 佐々木真裕
阿南市			井花 昭文・ 海部郡 島野 義人◎
吉野川市	大久保 公雄	杉友喜巳男	
美馬市	緒方 孝幸		中川 洋二・佐藤 武男
三好市	近藤 尚貴 佐々木 厚子		西内 重文・近藤 吉正 西内 浩真
美馬郡	宮久保 庄二		
三好郡	吉井 武		末内 正武
小松島市	赤瀬 敏幸	佐藤 茂樹	前川 英貴
勝浦郡	瀬戸 正彦		佐々木武義◎
名東郡	谷 渕 孝雄		
名西郡	林 収 一		河野 哲二・河野 博志
那賀郡	田 中 恒弘		和田 春雄

注) ◎印は、新たに選任された理事

県遺族会の第三十八回理事会が六月四日に、第十六回評議員会が六月十九日に護国神社参集殿において開催された。第三十八回理事会には、来賓として徳島県保健福祉政策課島田准子課長に出席いただきました。

坂千代会長は、「今日の遺族会には、先の大戦の記憶を次世代に継承することが求められており、日本遺族会が中心となり「平和の語り部事業」を実施している。この活動が青年部世代への組織継承にもつながるので、引き続き御協力をよろしく願いたい。」と挨拶した。

今回の理事会、評議員会では、長尾理事（鳴門市）・後藤理事（阿波市）の選任、島野評議員（海部郡）・佐々木評議員（勝浦郡）の選任を審議し、全会一致で承認された。



発行所
徳島市雑賀町
東開21番地 1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL (088) 636-3212
FAX (088) 636-3213
http://izokukai.jp/
発行責任者
坂千代 克彦
印刷
グランド印刷㈱

語り部事業のご案内（2か月に1回、奇数月に開催）

- 第106回 7月11日（土）13:30～14:30 戦没者記念館
「お父さん マサエです」 仁志 マサエ 氏（徳島市）
仁志様のお父様は、1944年（昭和19年）9月21日に民間船「淡路丸」に乗船中、魚雷攻撃を受けてルソン島北方沖で散華されました。その日は、仁志様が生まれて9日後の出来事でした。今回は、「母や姉からの話しか知らない父への想い」や「洋上慰霊の参加体験」などについて語っていただきます。
- 第107回 9月12日（土）13:00～14:00 徳島グランヴィリオホテル
「戦争と平和を語る」 藤原 政勝 氏（沖縄県島尻郡南風原町）
藤原様は、旧貞光町出身で昭和47年に沖縄が本土に復帰した時に移住されており、御父様は沖縄戦で散華されております。永年、沖縄徳島県人会の会長を務められ、摩文仁の丘での「徳島の塔」慰霊祭に毎年参列いただいております。今回は、「戦争と平和」、「古里とくしまへの想い」、「沖縄移住後の生活」などについて語っていただきます。
- 第108回 11月14日（土）13:30～14:30 戦没者記念館
「父と母 そして私」 戸井田 龍行 氏（徳島市）
戸井田様のお父様は、昭和19年8月13日に徴用船第二朝日丸で南シナ海を香港に向け航行中、航空機の攻撃により船が沈没し散華されました。今回は、亡き父と母の馴れ初めをはじめ、戦後一人で二人の子供を育てた母の苦労や感謝の気持ちなどをお話いただきます。
- 第109回 令和9年1月9日（土）13:30～14:30 戦没者記念館
「終戦16日前 南九州で戦死した祖父 享年38歳」 池本 一彦 氏（徳島市）
池本様の祖父池本三郎様は、1945年（昭和20年）7月29日にアメリカ軍の九州侵攻作戦に備えた作戦中、敵機の爆撃で戦死されました。散華された日は、8月15日終戦の16日前で享年38歳でした。今回は、「祖父の旧海軍の履歴や所属部隊・基地、戦死について」や「残された家族の戦後」、「日本遺族会と県遺族会、県遺族会青年部の活動」、「英霊からのバトン」などについて語っていただきます。
- 第110回 3月13日（土）13:30～14:30 戦没者記念館
「80年前の悲惨な出来事から何を学び、どう継承していくべきか」 山本 健司 氏（阿南市）
現在、山本様は徳島県遺族会の副会長兼青年部長に就任いただいております。今回は、「当時の時代背景や戦後の経済成長と国民の意識」、戦争の記憶の風化が懸念される中、「戦後100年に向けどのように語り継いでいくべきか」などについて語っていただきます。

令和八年度(昭和一〇〇年)

徳島県遺族会「平和の語り部大会」の開催

去る四月二十九日(水・祝) 徳島グランヴィリオホテルにおいて、約二百三十名の参加により、「平和の語り部大会」を開催しました。

この行事は、令和八年が昭和元年から起算して百年の節目となることから、国においては官民をあげて関連施策を実施することとなっており、その一環として日本遺族会の提案で全国の各支部が「平和の日」の前後において「平和

の語り部大会」を開催することとなったものです。

大会の開会式には、来賓として福壽由法徳島県保健福祉部長(知事代理)、仁木博文衆議院議員、中西祐介参議院議員、眞貝浩司徳島県議会副議長、岡田理絵自民党徳島県支部連合会総務会長に御臨席いただき、それぞれ御挨拶をいただきました。

また、山口俊一衆議院議員、有村治子参議院議員からは、お祝いのメッセージをいただきました。

語り部大会は、日本遺族会語り部事業本部の細貝本部長からビデオメッ

セージによる「昭和百年・平和の語り部事業について」と題しての講義の後に、昨年六月に実施された洋上慰霊の体験報告を徳島市国府地区遺族会会長の戸井田龍行氏にお話しいただきました。

次に、南海支隊戦友遺族会高知県支部長の太石宗氏に「忘れざる記憶」徳島・高知の戦争」と題し、徳島・高知両県で約三千七百人の犠牲者を出した輸送船「富山丸」の悲劇、国内外での遺骨収集活動の体験報告、慰霊碑の管理に関する問題提起などに関する講演をしていただきました。

参加者にとって、激動の昭和を逞しく生きた先人の叡智と努力に想いを馳せ、「戦争の悲しさ」「平和の尊さ」を次世代に語り継ぐ必要性を改めて感じる機会となりました。

最後に、「平和の語り部大会」の開催・運営に御協力をいただきました青年部をはじめ関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

春の靖国神社正式参拝・千羽づる奉納旅行

令和八年三月三十日(月)から四月一日(水)の二泊三日で、春の靖国神社正式参拝・千羽づる奉納旅行に、坂千代克彦会長を団長として三十三名が参加しました。

靖国神社では、快晴の中で満開の桜が参拝団を出迎えてくれました。

昇殿参拝に先立ち、日本遺族会水落会長に御挨拶をいただき、参加者全員が、緊張した面持ちで尊崇の念を込め、戦没者の御霊の安らかならんことを祈念し、厳粛に昇殿参拝を終えさせていただきました。

初日に宿泊したホテルでの懇親



会では、来賓として山口俊一衆議院議員、仁木博文衆議院議員、中西祐介参議院議員、有村治子参議院議員にご出席いただき、ご挨拶をいただきました。また、今回の旅行では、「山梨県護国神社」において、女性部作製の「千羽づる」を奉納しました。

二日目以降は、あいにくの雨模様となり、河口湖からの富士山を見ることはできませんでしたが、「石和温泉」で日頃の疲れを癒し、参加者全員和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。

語り部事業講演要旨

●第104回語り部事業 3月14日(土)

「知覧から出撃した第45振武隊」

鳴門市 山本 真由美 氏



陸軍特別攻撃隊第45振武隊は、昭和20年5月28日、18歳から29歳の11名が知覧飛行場から沖縄に向けて出撃しました。

この部隊のことを調べるきっかけは、「ホテルかえる」の本に書かれていた内容と出会った女性の当時のお話からでした。

本には知覧町にあった軍指定の「富屋食堂」を切り盛りしていた「鳥濱トメ」さんが特攻隊員を支え、見送った話が書かれています。現在、富屋食堂は忠実に再現され、資料館として特攻隊員の遺書や遺品などが展示されています。

出会った女性から聞いた話では、「昭和20年、私は18歳でした。兄は陸軍航空士官学校を出て昭和20年5月28日、知覧から特攻隊として出撃して戦死しました。兄の名前は小川彰です。第45振武隊の小隊長で、隊長機の操縦をして戦死しました。」ということでした。

そして本には、このような一文があります。「第45振武隊隊長 藤井一中尉は、部下を率いて出撃した。」とあります。小川彰様の妹様に見てもらおうと「そうです!この部下は兄のことです。」と、お兄さんのことが本に書かれていることを教えてくれました。

これがきっかけで、当時の状況や隊員の方のことを調べ始め、色々な資料を参考にするとともに、何度か知覧特攻平和会館(以下「会館」という。)や現地の戦跡を巡り、富屋食堂資料館の展示資料なども見てきました。

先ず当時の状況は、戦況が悪化し昭和19年10月にフィリピンでの特攻作戦が始まりました。昭和20年3月アメリカ軍が沖縄の慶良間(けらま)諸島に上陸し、これを阻止するため、特別攻撃隊を更に強化することを決定し、陸海軍による航空特攻、総攻撃が始まりました。

使用した飛行機は第一線を退いた旧式のものや練習機までもが集められました。

会館の資料によりますと、航空特攻による戦死者は3,963名で、これには空挺特攻や特殊滑空機「桜花」も含まれています。

そして戦車による特攻では9名、ベニア製のモーターボートによる水上特攻では、海軍は震洋(しんよう)、陸軍はマルレ艇と言い1,336名が、そして小型魚雷の回天や特殊潜航艇の海龍による水中特攻で544名の方が戦死されました。陸・海軍合わせて全ての特攻での戦死者が5,852名にのぼるということです。

航空特攻の攻撃方法は、飛行機に爆弾を取り付け、我が身もろとも船にぶつかっていく、自分の命を犠牲にしなければならない過酷な任務でした。

この写真は、昭和20年5月末頃、特攻隊編成地である茨城県鉾田で出陣記念写真に収まった隊員の方たちです。この3ヵ月前の2月に陸軍特別攻撃隊第45振武隊、快心隊が編成されました。

【各隊員の氏名・階級・年齢等の紹介】

隊員の中で訓練で亡くなった方を御紹介しましたが、小川彰少尉は、その方の遺骨を抱いて出撃したと、妹様から

お聞きしております。

昭和20年2月に特攻隊を編成後、全国各地の飛行場をめまぐるしく移動しています。大阪の大正飛行場で飛行機に爆弾を装備した後、昭和20年5月25日知覧飛行場へ、その3日後に出撃しています。

隊員たちは、出撃前まで三角兵舎という宿舎で待機し、最後の夜をここで過ごしました。

空襲を避けるため、飛行場から離れた松林の中に作られました。復元された三角兵舎が会館にありますが、実際は数人が身を寄せ合うほど狭く、夜具は藁布団に毛布だけという非常に粗末なもので、建物は風通しが悪く、雨・露を凌ぐだけの簡単な作りのものでした。

兵舎周辺には、炊事場や食堂、風呂場、新聞記者や特攻隊援護部隊の兵舎、そして知覧高等女学校などしこ隊の控え室があり、特攻隊員の身の回りのお世話や出撃の見送りを行っていました。

元なしこ隊の方の証言によると、「出撃の前夜は壮行会があり、お酒を酌み交わしながら隊歌を歌ったりして賑やかに過ごした」、「壮行会の後、薄暗い裸電球の下で遺書を書かれたり、中には三角兵舎の屋根で腹ばいになり、月明かりの中で何かを書いている方もいた」ということです。

夜は不寝番が巡回していましたが、中には声を殺して泣き、枕が涙で濡れていた方もいたそうです。

5月28日出撃の日は午前3時起床、特別操縦見習士官の記録によると、出撃の時刻が迫った頃、モールス信号を傍受する兵が三角兵舎に入ってきて、最後の打電方法を説明していた。

「皆さん落ち着いてしっかり打電してください。必ず皆さんの戦果をキャッチします。最初、自分の名前を打って、「我、突入す」最後はツーっと長く引っ張ってください。」

静まった兵舎の中に、「我、突入す」の電波が流れ、誰も暫くは黙ったまま、身動きもしない。その後、迎えるトラックに乗り、飛行場へと移動したと書かれています。

元なしこ隊の証言では、「出撃の時刻が近づくと、振武隊ごとに戦闘指揮所の前に整列して、軍指令や作戦参謀から激励の言葉を受け、皇居のある東の方に向けて遥拝(ようはい)した後、別れの杯が交わされた。」「出発までのひとときを車座になって隊歌を歌ったり、恩賜の煙草を吹かしたりと、思い思いに過ごし、搭乗時刻になると黙って顔を見合わせたり、肩を叩きあってから自分の飛行機へと向かって行かれた。」とのことでした。

本によると、「第45振武隊の攻撃目標は沖縄本島周囲、または中城(なかぐすく)のアメリカ艦船群。」「飛行機には250キロの爆弾を2発吊るし、9機は滑走路いっぱいを使い、防風林をかすめるようにして、午前4時55分離陸した。」と書かれています。

第45振武隊は、2人乗りの二式複座戦闘機「屠龍(とりゅう)」で出撃しました。

迷彩柄で尾翼には赤の三角のマークとその左右には、少し分かりにくいのですが45を記す漢数字の「四」と「五」が書かれています。このように特攻機の識別、そして隊員の士気を高めるためにそれぞれの部隊マークが印されていました。

会館には第45振武隊の編隊図があり、3つの編隊でそ

れぞれ1番機から3番機で組まれています。1番機だけが2名の同乗で、前方が操縦、後方に通信でした。

小川彰少尉は、第1編隊1番機に乗り、この日の第一次攻撃の最先陣で出撃しました。

知覧飛行場には、長さ1600メートルの副滑走帯と開聞岳に向かって1900メートルの主滑走帯がありました。この滑走帯が交わる場所に、戦闘指揮所とモールス信号を傍受していた通信室がありました。現在は石碑が建てられています。この飛行場から多くの特攻機が飛び立っていきました。開聞岳の右側を抜けて沖縄に向かうのが陸軍航空隊で、左側を抜けていくのが海軍航空隊だったそうです。特攻隊員は本土の最後の景色、開聞岳を眺めながら沖縄へと向かいました。

離陸後は上空で編隊を組み、下で見送る整備兵や住民の方が手を振っているのに応えて、さようならと機体を左右にバンクし、開聞岳の方に飛び立っていきました。

5月28日の出撃は、アメリカの艦船や戦闘機に見つかりにくく、船の大砲が飛んでこない甲板よりも下の超低空飛行で向かったそうです。

特攻機は、目標に到達するまでに警戒している敵戦闘機軍をかわし、突入中は敵艦隊が打ち出すさまじい対空砲火の弾幕の中を突入します。

会館の展示説明では、「体当たりを成功させるには、かなり高い戦技力が必要で、突入開始から目標までは2キロ、降下に移って体当たりするまで10秒から20秒、加速度で浮こうとする機体を押さえて目標を見つめてこれに突進する気迫が、この攻撃の成功、不成功の岐路だった。沖縄まで片道600km、所要時間は九七式戦闘機で約2時間半。孤独と任務達成の緊張に耐えながら、飛んだであろう。」と書かれていました。

特攻機は、突入する前に最後のモールス信号を打電しました。鹿児島県鹿屋市には当時海軍航空隊の串良基地があった地下壕電信室が戦争遺跡となっています。

戦艦、駆逐艦、空母の何に突入するのかを打電し、そして突入中のツーツという音が長かったら成功、短かったら打ち落とされた可能性有りだと判断していたようです。

音が途絶えた時が命が潰えた瞬間で、最後まで信号を押し続けろという命令がありました。

それでは、「我空母に突入す」というモールス信号を聞いていただきます。

【モールス信号の音声を流す】

とても胸を締めつけられる音です。

これは、陸軍が昭和20年5月に作成した特別攻撃隊用の教本「と號空中勤務必携」です。

心構えや戦術、突入角度や命中させる場所など、非情な内容の行動指示が書いてあります。

一部を紹介しますと「衝突直前：速度は最大限、飛行機は浮くが浮かれてはダメだ、力いっぱい押さえろ、人生25年最後の力だ」、「衝突の瞬間：頑張れ、眼などつむって目標に逃げられてはならぬ、眼はあけたままだ」などです。

元特攻隊員によりますと、急降下突入訓練の際は「行くぞ」と声を出し、歯を食いしばり眼を見開いて突入訓練を行っていたということです。

また、ある映画の中で元特攻隊員が「特攻は辛く、苦しい命令だった。小さい頃からの教育で、日本の国を守るために、命を懸けなければいけないと教えられた。まだやり

たいこともあったし、死にたくはかった。生きたかった。しかし、自分が死ぬことでみんなが幸せになるなら仕方ないと思った。中身は泣いているが泣かない。人の命を簡単に扱われた戦争は残酷だ。」と語っています。

次に第45振武隊の隊員についてお話ししたいと思います。

会館の遺書や寄せ書き、それから陸軍航空士官学校57期生士の本によるものですが、2階級特進された階級でお話します。

【各隊員の生い立ちや家族・出撃までの経緯・遺文などを紹介】

会館には、第45振武隊の寄せ書きが2枚展示してありました。この中の言葉は、「やるのみ、一言のみ」、「必殺必中」、「撃滅」、「三千年の史を守る若桜」、「かんじ突入（これはにっこり笑って突入という意味です）」、「散るべき春」、「散る身」、「生きて帰らん」など、文字通り覚悟を連ねているのがわかります。中には名前の近くに、ふる里を書き残した方もいました。

そして最後に、もう一人「ホタルかえる」の本に載っている石井町出身で知覧から出撃した中原常信大尉についてお話します。

富屋食堂の近くには麓川が流れています。その土手にはヒオウギという花がたくさん咲いていたそうです。

中原大尉は、空襲警報がない午後は鳥濱トメさん達とこの土手を散歩していたようです。花を見て、「そうだ。この花だ。ふる里の花と一緒に。ふる里の方でも咲いていた。強い花だから毎年咲くよ。来年もこの花が咲いたら『中原』という男がいたなと思い出してもらえれば嬉しいな。この花を食堂の裏庭に植えるから、俺だと思って育ててくれ。」と言ったそうです。

しかし、翌朝その花は枯れていたの、トメさんは気づかれないよう急いで同じ花を取りに行き植え替えました。中原大尉は花を見て、「生きている、良かった。大丈夫だね。」と水をやり、花を1本折り、胸のポケットに挿しました。そして翌日5月25日に突撃しました。

会館には、中原大尉の遺書が展示されています。展示されている多くの遺書は家族や恋人、お世話になった方、そして今の私たちに向けられたものでした。

感謝の気持ちや親孝行できず申し訳ないという思い、最期の別れを告げる文、そして日本が平和になるようお願い内容、後はよろしく頼みますという言葉が多く書かれていました。そして、全ての一字一句が極めて達筆で書かれていたのが、とても心に残っています。

このような資料館や戦争体験者の証言、映像、手記などから学び、それらを基に語り継いで平和を繋いでいかなければいけないと思いました。

「僕たちが死ぬことで平和になるなら、僕たちを忘れないで」と言い残し、ある隊員は読みかけの本に付箋を挟み、大空へと飛び立っていきました。これらのことは記憶されるべきで、決して忘れてはいけません。今ある平和は尊い命の犠牲の上にあると思っています。世界では未だに戦争はなくなりません。戦争がいかに愚かな行為であるかということや人類は気づき、平和について学ばなければいけません。

戦争を知らない私達にできること、それは学ぶことです。平和とは争いのない日常だと思います。皆さんが学ぶことで、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけになれば私は思っています。

本日は、ご清聴いただきありがとうございます。

語り部事業講演要旨

●第105回語り部事業 5月9日(土)

「青年たちの特攻」

南あわじ市 山崎 健祐氏(82)



今日は、松茂とフィリピンでの特攻隊について、郷土の資料等を参考に体験者の方のお話などをさせていただきます。最初は、九州出身の田尻正人さんの体験談です。田尻さんは、松茂の航空隊(特攻隊)に来る前は中国上海の航空隊にいました。

昭和20年3月、田尻さんは徳島への転属を命じられました。到着後に驚いたのは、飛行機が練習機だったことです。何故かと言えば、上海では零戦という実戦用の戦闘機に乗っていたのが、徳島に来たら練習機だったわけです。

零戦は最高時速530kmですが、白菊の練習機は180kmで、大きな差があります。当時、アメリカはグラマン戦闘機でしたが、とても勝負にならず見つければそれまでです。

同年5月に特攻隊の組織ができ、隊員に命じられ、5月26日が出撃予定でした。白菊は2人乗りの飛行機で、250kgの爆弾を2個飛行機に取り付けて、敵の軍艦に体当たりするわけです。

5月22日に徳島から第一陣として、60機120人が鹿児島県の串良という基地に行きました。そして、5月26日に沖縄への出撃前夜、理由は分からなかったようですが、中止命令がでて、一旦徳島へ帰って待機することになりました。徳島で待機中に、松茂の飛行場が空襲で使えなくなり、第2基地ともいべき、市場町に移りました。

市場町の飛行場は狭く滑走路が短い。しかも両端が崖とか谷になっているので、500kgの模擬爆弾を抱えての訓練は大変でした。飛び上がるのがやつの状態で、山の崖に当たったり谷に落ち込んだり、そんな事故の可能性が高い飛行場だったのです。

それで、待機中に終戦になり、田尻さんの隊は出撃できずに終わりました。次に、第二次白菊隊 山下栄さんの体験談です。

山下さんは、5月27日の出撃で、昼間は目立つので夜に出撃することになり、眠気防止食として、紅茶を粉末にして砂糖で固めたようなものを配られたそうです。この日は16機32名が出撃態勢に入り、田中一郎隊長が寄せ書きを書いてくれたということで、ある隊員は「我白菊を愛す」と書き、山下さんは「身はたとえ いくの果てにく だくとも いくとせ後の春を思えば」と書きました。

20時20分から間隔を空けて1機ずつ飛び立ち、1時間程で13機が飛び立ちました。

沖縄の天候は良く変わるもので、飛行場では良いと思っても、向こうは悪天候の場合があります。その日も、あと3機という時になって中止命令が出ました。

山下さんの飛行機は既に飛び立っていました。無線も何も積んでいけませんので、連絡も何も入りません。そんな飛行中にアメリカのグラマン戦闘機が追いかけてきました。真っ直ぐ飛んでいたのでは的になるので、右に左に動いて避けているうちに、燃料が減って沖縄へ行けそうになるので引き返すことになったんです。

それで、無事に鹿児島県の串良基地に帰り着くことができました。結局この日は、16機の内3機が中止、4機が燃料切れやエンジン不良で引き返し、2機は串良に不時着して生還したということです。還らなかったのは7機14名でした。

次に、第三次白菊隊 野田新太郎さんの体験談です。

5月28日、15機30名が夜に出撃しました。無線機を積んでいたのは、3機か4機ぐらいで、野田さんの機には無線は積んでいませんでした。壊れる飛行機に無線は要らないということです。人の命より飛行機の方が大事ということです。

沖縄へは0時5分に着きました。このときは天候が悪く、ものすごいコールでした。結局、軍艦を発見することができず、やむを得ず引き返すことになりました。

ところが、引き返す途中に燃料が少なくなり、500kgの爆弾を海に落として飛び続けたんですけど、結局基地まで戻れず、屋久島に不時着しました。

海にものすごい勢いで着水したわけですが、その衝撃で舌が半分切れ、歯が全部飛んでしまうという大けがをしています。民家に運ばれ、20日間寝たきりだったそうです。

同乗の高橋さんという方も鎖骨にひびが入ったり、肋骨が折れたそうです。

この意識不明の間、亀の卵を溶いたのをご飯にまぶして、民家の人の中に入れてもらっていました。それで何とか元気になったとのこと。

体調の回復後、屋久島から船で串良基地に戻ることができ、その後に陸路で徳島に帰りました。

松茂に戻ってから、「飛行機を壊してしまったので、重営倉(懲罰房)に入れられるのではないかと心配していたのですが、入れられずに済んだということです。

次に、第五次白菊隊員の岡倉悦二(飛曹)と三浦猛輝(少尉)のことです。

岡倉さんは、出撃前に所感を出しています。「青葉茂る四国の山々 潮渦く鳴門海峡清き流れの吉野川 此の一角に誕生せる白菊特別攻撃隊 特攻隊の後に続く我ら爆弾を抱えて行くは何処か 敵艦船求めて沖縄の花と散らん」という所感を残し、戦死されています。

次に三浦少尉ですが、この方は第2次、第4次の2回出撃し、天候不良とかにより引き返し、3回目の出撃でした。

三浦さんの機には、数少ない無線を積んでいましたが、基地に突撃時の無線が入っています。

11:47 「ワレ意気天ヲシク」

12:39 「ワレ沖縄ニイタル」

12:42 「ワレ突入セントス」

12:44 「天皇陛下バンザイ」

45分に輸送船に体当たりするユタ連送という信号を発信しており、10分間「ツーウ

と信号が続き切れました。切れた時が突入した時です。

作戦室にいた司令をはじめ全員あふれる涙を拭おうとせず、合掌したそうです。次に、第5次白菊隊の鹿谷徳一さんですが、鹿谷さんは、亡くなったと思われていたのですが、実は生き残っていました。

飛行機が暗闇の中を沖縄へと向かっていると、操縦の谷川中尉が突然叫びました。「おい、大変だ。燃料が無くなった。不時着の用意をしてくれ。」恐らく燃料漏れだったと思われます。

燃料が切れ、飛行機はほとんど下がりはもう目の前です。ドカーンと大きな音がして海面にたたきつけられ、飛行機の外に放り出されました。

腕が全く動かず、肩がちぎれそうな痛みが走りました。谷川中尉は顔中血だらけでどうすることもできません。

その間、飛行機は燃え上がって海に沈み、私は潮に流され、運良く海軍のレーダー基地のある島に流れ着きました。兵士が肩が外れているのを治してくれ落ち着きました。

島は小さな島で「宝島」という島です。ここで1ヵ月ほど滞りました。鹿谷さんが串良基地に還りたいということで、島の人たちが小舟に帆を張った程度のものを用意してくれて、夜の時間帯に九州の方に向かって船を進め、1ヵ月ぐらいで九州にたどり着くという時に、風向きが変わって南の方に流され無人島にたどり着きました。

そこで貝を拾ったり、残っていた米を炊いて何とか凌ぎ、風向きが変わったので、九州の枕崎に着きました。その時には戦争は終わっていました。

枕崎には陸軍の基地があり、たまたま同郷の人が基地にいて、髪の毛や髭も剃ってもらい、服も陸軍の服を用意してもらって徳島に戻ったということです。

戦後は、学校の教員をされた後に神社の神官になっており、亡くなった方の冥福を祈っていたということです。

次に、フィリピンでの特攻隊のお話です。

昭和20年の春頃には戦況は日々悪化し、このままだと窮乏になってしまうような状況でした。そこで軍部の間で特攻作戦(いわゆる体当たり)案が出てきたわけです。

この時期になると、飛行機もパイロットも少なく、どうにもならない。それで、特攻作戦案を推進していたフィリピンの現地の司令官である大西中将が「戦況が悪いから特攻隊を作れ」という命令を出したわけです。それで特攻第1号隊というのができたわけです。

隊長には、愛媛県西条出身の関行男大尉が選ばれました。

関さんは若手の指揮官で24～5歳ぐらいです。隊員さんは予科練出身者が選ばれました。

ここで、隊員のエピソードを二つ紹介します。

福島県出身の中野盤雄さんは、特攻隊員を志願しました。成績優秀で学校でも航空隊でもトップクラスの人でしたが、飛行機の練習中に、同期生の飛行機と接触して相手を死なせてしまいました。そんなこともあって特攻隊を志願したようです。

京都府出身の谷暢夫さんは、子どもの時から飛行機が大変好きで、授業を受けて念願の飛行機乗りになりました。

谷さんも護身用のピストルをいじっている時、そのピストルが暴発して近くの人に当たって死なせてしまったようです。そういうことを気にしまして、特攻隊を志願したそうです。

谷さんは「寺の長男に産まれながら家を継がず、勝手に予科練に入ったことをお許し下さい 父上様、母上様」との遺書を残しています。

次に、敷島隊の出陣式の写真をご覧ください。

5人ぐらい並んでいますが、一番左が関大尉で水盃を飲んでいます。それを見ているのが玉井中佐という方で、この玉井さんは松茂にもいました。背中が写っているのが大西司令官です。

大西司令官は隊員一人一人と握手しながら「特攻隊員になってもらってありがたい。国のため尽くしてくれる君たちを決してムダ死にはさせない。俺も必ず後から行くからな。」と言ったそうです。

14名の特攻隊は4班に分けられ、それぞれ名前を付けております。敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊、です。この名前の由来は、昔の武官であります本居宣長が謳った短歌に由来しています。その短歌とは「敷島の大和心を人問はば 朝日に匂う山桜かな」です。

この出陣式は、昭和19年10月20日にあり、25日にはフィリピンの南側のレイテ湾の方で、アメリカの航空母艦セントローを発見し、体当たりをしております。

このように、何隻かの軍艦に撃沈したり、大破もしたという大戦果を上げております。このことは、当時の新聞・ラジオで大きく報道されました。

新聞記事には、隊員の名前が出ています。「関行男、中野盤雄、谷暢夫、永峰猛、大黒繁男」の5人の隊員が体当たりをして亡くなっているわけです。この報道で日本はわき返ったものですから終戦まで特攻が続いたわけです。

出陣式があったのは、フィリピンのクラークという所にある「マバカラット飛行場」でした。ここが特攻1号隊ができた場所だったのです。

出陣式の時に「俺も必ず後から行くからな」と言った大西中将は、終戦翌日の8月16日に自決をされており、「特攻隊の英霊に申す。善く戦ひたり深謝す。最後の勝利を信じつつ肉弾として散華せり其の信念は遂に達成し得ざるに至り、吾れ死を以て旧部下の英霊と其の遺族に謝せんとす」という内容の遺書を残しております。

玉井中佐は、特攻隊の副長の職で隊員を事実上指名した方ですが、終戦後に仏門に入り、出身地の松山に戻ってお寺の住職になっております。それで、毎朝水をかぶって亡き英霊のために手を合わせていたということです。

最後に、戦争とは悲惨なものです。戦争で、将来ある多くの若者の命が失われたのです。今の平和があるのも、亡くなった多くの方の犠牲があつてこそ、今の平和があるのだといっても過言ではありません。以上で、お話しを終わります。ご清聴いただきありがとうございます。

「英霊にこたえる会」創立 50 周年
徳島県本部が特別表彰を受賞



英霊にこたえる会中央本部の第52回総会が令和8年4月23日（木）に東京都内で開催されました。

令和8年は、同会の創立50周年であることから、これまでに功績のあった者として、徳島県本部をはじめ個人2名、15団体が特別表彰を受賞しました。

お 慶 び

令和8年6月3日 受賞

県民表彰受賞



徳島県遺族会 理事
勝浦郡遺族連合会 会長
瀬戸 正彦氏

多年にわたり遺族会の発展と、会員の福祉の向上に多大なるご貢献をいただきました。
心よりお慶びとお礼を申し上げます。

百歳のお慶び

矢武 國枝さん（神山町）



令和8年度の「100歳長寿者記念品贈呈」に際し、本年度満百歳を迎えられた矢武國枝さんのもとへ、当会会長とご家族の皆様とともに訪問いたしました。

施設にてお会いしたご本人様は大変お元気な様子で、会長から手渡された記念品を笑顔で受け取ってくださいました。戦後の多難な時代を乗り越え、今日まで歩んでこられたその足跡に敬意を表するとともに、ご家族とともに百寿の喜びを分かち合えたことは、当会にとっても大きな喜びです。

今後とも健やかに、穏やかな日々を過ごされますよう心よりお祈り申し上げます。

神山町遺族会会長 林 収一

大西 タカ子さん（那賀町）



令和8年5月1日、那賀町平野の大西タカ子さんが、めでたく百歳の誕生日を迎えられました。

徳島県遺族会会長から、お預かりしたお祝い状と記念品をお届けするとともに、那賀町相生地区遺族会よりお祝いをお贈りさせていただきました。

大西さんは昭和20年に義弟さんを満州で亡くされました。

現在は、町内の福祉施設に入所されて、穏やかな日々を過ごされています。誕生日当日には、ご家族はもとより、県知事代理や町長の他、施設の理事長も出席されての式典が行われました。大西さんは淡い紫色の着物に小花柄の帯を身につけられ、引き締まった居住まいが印象的でした。写真を撮らせていただいた時には、笑顔も見られ、和やかな雰囲気、式典が終了しました。これからも、お健やかに過ごす事が出来ますよう、心よりお祈り申し上げます。

那賀町相生地区遺族会 会長 田中 恒弘

地方だより

令和8年度 市町村戦没者追悼式の開催

令和8年度の戦没者追悼式が各地域において執り行われ、当日は県遺族会役員が参列しました。



小松島市坂野地区戦没者追悼式：4月6日



鳴門市戦没者追悼式：5月9日



板野町戦没者追悼式：5月16日



つるぎ町戦没者追悼式：5月19日



徳島市戦没者追悼式：5月23日



那賀町戦没者追悼式：5月23日



上板町戦没者追悼式：5月23日



三好市戦没者追悼式：5月24日



阿波市戦没者追悼式：5月30日



東みよし町戦没者追悼式：6月3日



美馬市戦没者追悼式：6月4日



美波町戦没者追悼式：6月5日

徳島県護国神社みたままつりのご案内

護国神社では、八月一日(土)・八月二日(日)の二日間、夏の慰霊行事「みたままつり」を斎行する予定です。
※提灯の掲揚は八月一日から十五日(平和祈念祭)まで。

ご神前に「みあかし」をともして神慮をお慰めし、広くご神徳をいただくお祭りです。趣旨ご賛同頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。
提灯献灯お申込み要領

一般献灯(小型提灯)(五年間掲示)

一〇、〇〇〇円

△申込締切日▽

七月十五日までにお申込みいただければ、市町村ごとに並べて掲揚致します。

◎主な行事予定

八月一日(土)

「みたままつり神事」並びに「夏の越の大祓式」など

八月二日(日)

「小中学生奉納書道大会」表彰式・ステイールパン演奏・ビンゴゲーム大会・阿波踊り(天水連)など

八月一日(土)から十五日(土)まで

「小中学生奉納書道大会」作品展示

「人形供養」受付け(古くなった人形やぬいぐるみなどお持ちください)

一般献灯



※行事内容については都合により変更する場合がございますので、ご参拝の節は社務所までお問い合わせください。

護国神社社務所
088-669-3090

青年部「父の像」清掃活動



四月十二日(日)、徳島中央公園に建立されている「父の像」の清掃活動を青年部が実施しました。
当日は、暖かな春の陽気に恵まれ「父の像の洗浄」、「落ち葉拾い」、「雑草やゴミの除去」を実施しました。今後、御英霊に感謝し、清掃活動を継続していくので、引き続き青年部の皆さんの御協力をお願いいたします。

女性部が「平和の語り部授業」を実施

(海陽中学校・相生中学校)

女性部が修学旅行の事前学習として「平和の語り部授業」を実施しました。

五月十一日(月)には、海陽町立海陽中学校で二年生を対象に演習部長が沖繩戦の紙芝居と講話を行いました。

五月十五日(金)には、那賀町立相生中学校で二年生を対象に遺族会事務局から「先の大戦」や「沖繩戦」の概要を説明した後、那賀町女性部の延敬子さん、仁木あけみさんが沖繩戦に関する紙芝居と講話を行いました。

今回の授業や修学旅行での体験により、生徒の皆さんが「平和の尊さ」と「命の大切さ」について、考えるきっかけにしたいだければ幸いです。



戦没者記念館だより — 写真展示数 8,220柱(令和8年6月20日現在) —

▶ 来館者のお声

- 母方の実家の仏壇に軍服姿の写真が飾ってあり、身内で戦争に行ったのだと思い、親にそのことを聞いてもなぜか話を避けられました。当時の話は分かりませんが、新聞などで読む限り、凄く悲惨なものだったと思います。記念館でまだ10代の子どもが戦死された写真を見て、なんとも言えない気持ちになりました。ウクライナやガサ、イランでも毎日命が失われていることも悲惨です。(県内:50代・女性)
- 説明や展示品から当時の戦争の激しさを知ることが出来ました。現在も国際問題等でさまざまな戦争が起きていますが、それを考えるきっかけとなりました。(愛知県:20代・男性)
- 夫の実家に長い間、気に留めていなかったが、靖国の立派な額に入って飾られている遺影がありました。父母が亡くなり、無人となるのを機に、我が家が引き取り、夫の祖父の兄弟のことを色々と調べてみました。私達が忘れてしまえば、この人はもう、誰の記憶にも残ることはありません。夫は戦没地のシベリアにも一度訪れました。今日は息子と共に、この記念館に来ました。遺影の数が胸に刺さりました。ありがとうございました。(県内:60代・女性)
- 特攻について関心が湧いたため来館しました。遺影や戦没者の方々の遺品や丁寧にまとめられた資料のおかげで、当時の雰囲気や戦争の恐ろしさを身に染みて実感することができました。(愛媛県:10代・女性)

徳島県遺族会 青年部メンバー募集

戦没者とその時代を学び、平和について一緒に考えましょう

徳島県遺族会は、先の大戦で最愛の肉親を失った悲しみを乗り越え、悲惨な戦争を繰り返さないことを固く誓い、昭和26年（1951年）の創立以来、一貫して平和を求めて活動を続けています。

今後も史実を語り継ぎ、平和な日常を求めていくため、戦没者の孫・ひ孫の世代を中心に「青年部」を発足しています。さらに活動の輪を広げていくため、メンバーを募集します。

直接のご遺族でなくても参加可能です！！

青年部員の声

- ・戦死した祖父の戦跡を始めて知りました。どんなに辛い気持ちで亡くなったのかと思います。祖父のお陰で今の自分たちがいられると感謝の気持ちで一杯です。(40代女性)
- ・戦争は絶対に起こしてはならないと改めて思います。一度始まると終わらせるのは難しい。子どもたちに伝えて行きたいと思います。(40代男性)

青年部への登録方法

※登録は無料です。随時、各種行事の案内が届きます。

※参加してみたい行事や活動に無理のない範囲で気軽にご参加ください。

※右記のQRコードを読み取っていただくと、ホームページで概要がわかります。



活動内容

※全国戦没者追悼式、沖縄「徳島の塔」慰霊祭への参列

※語り部事業、小中学生への平和学習、研修会への参加

※他県遺族会との交流会、徳島県護国神社祭事（例大祭）への参列など



全国戦没者追悼式



沖縄「徳島の塔」慰霊祭



平和の語り部研修会

お問合せは、お気軽に徳島県遺族会事務局まで

☎ 088-636-3212

令和8年度慰霊巡拝等派遣費補助金（平和の語り部事業）

徳島県戦没者記念館 第20回特別企画展

沖縄戦の記録（記憶）

1945年（昭和20年）3月26日から同年6月23日の約3カ月間、日本で唯一の地上戦となった沖縄戦では、多くの一般人を含む約20万人の方々がお亡くなりになりました。

先の大戦から80年、昭和47年に沖縄が日本に復帰してから50年が経過しましたが、沖縄には今でも当時の戦いの記憶（戦跡）が数多く残っています。

今回の企画展は、沖縄戦の記録（記憶）を写真や資料・映像の放映で紹介することにより、改めて「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ・命の大切さ」を考える機会としていただくため開催いたします。

写真：「沖縄県公文書館所蔵」



▲日本軍の壕を米軍が爆破



▲米巡洋艦からの砲撃



▲日本人が潜む洞窟への火炎放射



▲捕虜となった日本軍の兵士たち

令和8年
開催期間 **8/1(土) ▶ 8/16(日)**
平日／9:00～16:30 土・日・祝日／10:00～16:30

場所 **徳島県戦没者記念館 あしたへ**
〒770-8021 徳島市雑賀町東開21-1
電話 088-636-3212 FAX 088-636-3213 <http://izokukai.jp>

展示内容（予定）

- 沖縄戦に関する記録写真、資料
- 体験者の証言映像
- 沖縄戦に関する関係書籍

観覧無料



主 催 / 一般財団法人 徳島県遺族会
徳島県戦没者記念館奉賛会
協 力 / 沖縄県平和祈念資料館

お早めに・お忘れなく！

「第12回特別弔慰金」の請求

昨年の4月1日から「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金支給法」に基づき、第12回特別弔慰金が請求できますので、受給権のある方で、まだ請求されてない場合は、早めに窓口で手続きをしてください。

◎ 請求期間

令和7年4月1日から令和10年3月31日まで（3年間）
※期間内に請求を行わないと、時効により権利が消滅します

◎ 請求書の受付機関

請求者の居住地の市町村（援護担当窓口）
※法定代理人又は相続人による請求の場合は、それらの方の居住地の市町村が受付機関となります。

【請求・相談窓口一覧】

市町村援護担当課一覧

令和8年4月1日現在

市町村名	担当課	電話番号	郵便番号	所在地
徳島市	健康福祉政策課	088-621-5562	770-8571	徳島市幸町2丁目5番地
鳴門市	市民協働推進課	088-684-1140	772-8501	鳴門市撫養町南浜字東浜170番地
小松島市	市民環境課	0885-32-2132	773-8501	小松島市横須町1番1号
阿南市	市民生活課	0884-22-1116	774-8501	阿南市富岡町トノ町12番地3
吉野川市	社会福祉課	0883-22-2261	776-8611	吉野川市鴨島町鴨島115番地1
阿波市	社会福祉課	0883-36-6811	771-1695	阿波市市場町切幡字古田201番地1
美馬市	生活福祉課	0883-52-5604	777-8577	美馬市穴吹町穴吹字九反地5番地
三好市	地域福祉課	0883-72-7647	778-8790	三好市池田町サラダ1610番地1
勝浦町	福祉課	0885-42-1502	771-4395	勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3番地
上勝町	住民課	0885-46-0111	771-4501	勝浦郡上勝町大字福原字下横峯3番地1
佐那河内村	住民税務課	088-679-2114	771-4195	名東郡佐那河内村下字西ノハナ31番地
石井町	福祉生活課	088-674-1116	779-3295	名西郡石井町高川原字高川原121番地1
神山町	健康福祉課	088-676-1114	771-3395	名西郡神山町神領字本野間100番地
那賀町	保健福祉子育て課	0884-62-1141	771-5495	那賀郡那賀町延野字王子原31番地1
牟岐町	住民福祉課	0884-72-3416	775-8570	海部郡牟岐町大字中村字本村7番地4
美波町	住民生活課	0884-77-3613	779-2395	海部郡美波町奥河内字本村18番地1
海陽町	長寿福祉人権課	0884-73-4312	775-0395	海部郡海陽町奥浦字新町44番地
松茂町	長寿社会課	088-699-2190	771-0295	板野郡松茂町広島字東裏30番地
北島町	福祉課	088-698-9802	771-0285	板野郡北島町中村字上地23番地1
藍住町	福祉課	088-637-3114	771-1292	板野郡藍住町奥野字矢上前52番地1
板野町	住民課	088-672-5984	779-0192	板野郡板野町吹田字町南22番地2
上板町	福祉介護課	088-694-6810	771-1392	板野郡上板町七條字経塚42番地
つるぎ町	福祉課	0883-62-3116	779-4195	美馬郡つるぎ町貞光字東浦1番地3
東みよし町	福祉課	0883-82-6306	779-4795	三好郡東みよし町加茂3360番地

第59回 沖縄「徳島の塔」参拝団募集

沖縄南部の激戦終焉の地、摩文仁の丘に徳島県人戦没者慰霊塔「徳島の塔」が昭和40年12月に建立され、今年度は59回目の慰霊参拝となります。一般財団法人徳島県遺族会では、下記のとおり参拝団を募集いたしますので、参加を希望される方は期限までに事務局まで御連絡ください。

- 1

旅行日程

令和8年11月17日(火)～18日(水)
※日程の詳細は、行程表を御覧ください。
- 2

旅行代金

95,000円程度
※なお、金額は参加人数などにより多少変動することがあります。
- 3

募集人員

15名
※ただし、満員になり次第締め切ります。
- 4

申込期限

令和8年9月11日(金)
- 5

お問合せ

〒770-8021
徳島市雑賀町東開21-1(護国神社内)
徳島県遺族会事務局まで(TEL 088-636-3212)

日時	月日(曜)	行 程
1	11/17 (火)	集合場所:徳島県護国神社会議室 9:00から出発式 徳島県護国神社 9:30 → 高松空港 10:45/11:40 → 那覇空港 13:50/14:30 → 首里城(観光ガイドによる案内) 15:00 → (国際通り周辺) 17:15 ＝ ホテル 17:30 → 徒歩 17:45 → 夕食【創作料理 二幸】 18:00 → 各自自由散策 20:00 → ホテル(泊) 21:00 宿泊先:「沖縄ナハナ・ホテル&スパ」 住所:沖縄県那覇市久米2丁目1-5 ☎ 098-866-0787
2	11/18 (水)	ホテル 8:20 → 平和祈念公園(徳島の塔・平和の礎・平和祈念資料館) 9:00 → 昼食【那覇そば 那覇亭】 11:30 → 12:00 → 12:40 ＝ 沖縄県護国神社 12:50 → 那覇空港 13:30 → 13:45/14:45 → 高松空港 16:40/17:30 → 徳島県護国神社 19:30

遺族会の動き

令和八年四月～六月実施行事

(四月)

- 10日 市町村事務局長会議(護国神社)
- 12日 青年部役員会(護国神社)
- 12日 父の像清掃活動(徳島中央公園)
- 23日 英霊にこたえる会中央本部総会(東京)
- 29日 (昭和100年)平和の語り部大会(徳島グランヴィリオホテル)

(五月)

- 9日 語り部事業(戦没者記念館)
- 12日 監事会(護国神社)
- 13日 英霊にこたえる会監事会(護国神社)
- 23日 女性部役員会(護国神社)
- 27日 正副会長会(護国神社)

(六月)

- 4日 理事会・記念館奉賛会総会(護国神社)
- 19日 評議員会(護国神社)
- 29日 日遺「平和の語り部全国大会」(東京)
- 30日 全国戦没者遺族代表者会議(東京)
- 30日 日遺女性部研修会(東京)

令和八年七月～十一月行事予定

(七月)

- 11日 正副会長会(護国神社)
- 11日 語り部事業(戦没者記念館)
- 21日 英霊にこたえる会総会(護国神社)

(八月)

- 1～16日 特別企画展(戦没者記念館)
- 1～2日 みたま祭り(護国神社)
- 14～15日 全国戦没者追悼式(日本武道館)
- 15日 平和祈念祭(護国神社)

(九月)

- 4日 正副会長会(護国神社)
- 12日 語り部事業(徳島グランヴィリオホテル)
- 12日 令和8年度徳島県戦没者遺族大会(徳島グランヴィリオホテル)
- 28～29日 英霊にこたえる会中国四国ブロック会議(広島市)

(十月)

- 27～28日 日遺中国四国ブロック会議・平和の語り部大会(山口市)

(十一月)

- 2日 例大祭(護国神社)
- 14日 正副会長会(護国神社)
- 14日 語り部事業(戦没者記念館)
- 17～18日 沖縄「徳島の塔」慰霊巡拝(糸満市ほか)

会報の次回発行は、

令和八年十月号です

本会の会報は、年4回(1月・4月・7月・10月)に発行します。